

「フード・コミュニケーション・プロジェクト(FCP)」について

平成23年5月
農林水産省FCPチーム

◎農林水産省が、食品事業者の皆さんや関連事業者の皆さんと「協働」で進めている「フード・コミュニケーション・プロジェクト(FCP)」の取り組みをご紹介します。

1 フード・コミュニケーション・プロジェクト(FCP)の概要

FCPは、農林水産省が、食品事業者や関連事業者の皆さんに参加を呼びかけ、「協働」で進めている取り組み(平成20年度に立ち上げ)。規制でなく、意欲的な食品事業者の皆さんの取り組みの活性化により、消費者の信頼向上を図ることが基本的な考え方。

FCPでは、食品事業者の行動の「見える化」をテーマに取り組みを推進。

食品の品質管理や消費者への情報提供など、消費者の信頼向上のために重要な課題を、共通の項目「協働の着眼点」として取りまとめ、業種を越えて共有。

この「協働の着眼点」を活用して、情報の効率的なやり取り、社内や取引先の適正な評価などに取り組む関係者の輪を拡げることにより、フードチェーン全体での透明性向上、社会的コストの抑制につなげる仕組み。

2. これまでの取り組み

(1)情報共有ネットワークを構築

FCPの基本的な考え方に賛同する食品事業者(製造、卸売、小売等)、地方公共団体、金融機関等の皆さんと農林水産省との間でネットワークを構築(本年4月末時点で968社/団体が参画)。

(2)「協働の着眼点」を策定

平成20年度に、食品事業者の皆さんの自主的な参加による作業グループを組織し、42回の会合に、合計で70社から、延べ約390名の参画を得て策定。

(3)「協働の着眼点」を活用し、適正な評価機会を増やす取り組みを推進

●取り組みの具体例【テーマ別研究会の開催】

これまでの研究活動の主な成果としては、工場監査でのチェック項目の共有化(「FCP共通工場監査項目」、「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」)、消費者との対話を戦略的に実施する手引き(「FCPダイアログシステム」、「FCPダイアログシステム作業シート」)の作成、展示会・商談会での説明と情報収集を効率化する統一フォーマット(FCP展示会・商談会シート)の作成やその普及方策の検討など

●取組みの具体例【地域ランチの活動】

地域の食品産業の活性化のため、都道府県単位で、独自にFCPの仕組みを活用する活動を「地域ランチ」としてサポート。

各都道府県から、人材育成、販路開拓などの活動の提案を受け付け。平成22年度末までには、岩手県、三重県、和歌山県、愛媛県、山梨県、栃木県、大分県、滋賀県で地域ランチの展開。

3. 今後の取組方向

(1) 情報共有ネットワークの拡大

食品事業者等の皆さんにより、「協働の着眼点」の活用機会が増加し、食品業界のスタンダードになるよう、多様な関係者の皆さんに幅広く情報共有ネットワークへの参加を呼びかけ

(2) 取引情報の標準化、消費者とのコミュニケーション強化などに関する研究・実践

取引情報のやり取りの効率化や消費者とのコミュニケーション強化等のため、「協働の着眼点」を共通基盤にして標準化の活動等を展開。

平成23年度も引き続き、「工場監査項目の標準化・共有化研究会」「商品情報の効率的なやりとり研究会」「消費者との対話のあり方研究会」「企業力向上の場としてのマッチング・商談会の活用に関する研究会」等の研究会を開催していくことを予定。

(3) 事業者間の「協働」の取組みの促進

食品事業者、関連事業者の皆さんが、自らFCPを普及し、「協働の着眼点」を積極的にビジネスで活用していただけるよう、業種を超えた「協働」の場作りを促進。

平成23年度も引き続き、事業者の皆さんによるFCPの普及のあり方の研究の場や、「協働の着眼点」を活用したアセスメントに関する情報共有の場をサポートする他、東京大学食の安全研究センターと連携して活動報告会を開催していくことを予定。

FCPについてのお問い合わせ先:

農林水産省

フード・コミュニケーション・プロジェクトチーム

TEL 03-6744-2397 FAX 03-6744-2369

Email: fcp_jimukyoku@nm.maff.go.jp

(参考) F C P 成果物等の一覧

現在、以下の成果物等が F C P ホームページからダウンロードしてお使いいただけます。それぞれ利用規約等をお読みの上ご利用下さい。

○ F C P ロゴマーク

以下 URL から NW 参加者ログインをしていただいたページに「F C P ロゴマーク」へのリンクがありますので、是非お使い下さい。なお、同ページにある「F C P ロゴマークの使用について」をご覧くださいの上、事前に申請を行い、農林水産省からの許諾を得てから使用を開始して下さい。



<https://ssl.food-communication-project.jp/fcpDB/fcp50i.php>

○ 協働の着眼点 (業種横断版、業種別)

http://www.food-communication-project.jp/aim/aim_01.html

<http://www.food-communication-project.jp/aim/index.html>

○ ベーシック 16

<http://www.food-communication-project.jp/basic16/index.html>

○ F C P 成果物

以下 URL に各成果物へのリンクがあります。「研究会・分科会成果物利用規約」をご覧くださいの上、ご利用下さい。

http://www.food-communication-project.jp/result/index_top.html

<ダウンロード可能な成果物>

- ・ F C P ダイアログ・システム (第一版)
- ・ F C P ダイアログ・システム 作業シート
- ・ F C P 共通工場監査項目 (第 1 版)
- ・ F C P 共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法
- ・ F C P 展示会・商談会シート
 - 展示会・商談会シート項目と着眼点との関連
 - 「F C P 展示会・商談会シート」の利用に関する Q & A
- ・ セルフアセスメントシート
- ・ パート・アルバイト向け食品衛生マニュアル
 - 講師用テキスト、理解度テスト
- ・ 協働の着眼点を活用した認証規格
 - 審査時の報告書表紙(サンプル)
- ・ 食の信頼確保のための成熟度の評価事業について
 - マネジメント成熟度アンケート、対策内容アンケート
- ・ 食品事業者(経営陣)向け研修プログラムの開発について
- ・ 地域の良いモノ売れる商品支援事業について
- ・ "食の信頼"見える化ツアー ツール集



FCP平成23年度の取組に関する説明会資料

平成23年度の研究会のテーマ・進め方について

平成23年5月11日

農林水産省

フード・コミュニケーション・プロジェクトチーム

目次

| | |
|---------------------------------|-----|
| 平成22年度の取組の概要について | P 3 |
| 平成23年度の研究会のテーマ・進め方について | P17 |
| ・工場監査項目の標準化・共有化研究会 | P25 |
| ・商品情報の効率的なやりとり研究会 | P37 |
| ・企業力向上の場としてのマッチング・商談会の活用に関する研究会 | P49 |
| ・消費者との対話のあり方研究会 | P65 |
| ・(参考資料)アセスメント研究会 | P81 |

1. 平成22年度の取組の概要について

平成22年度 FCP 研究会

活動パターン

【研究会】情報共有の場

①農林水産省の設ける研究・発表の場

消費者との対話のあり方
工場監査項目の標準化・共有化
商品情報の効率的なやりとり
企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会の活用

②事業者の主体的な取組農水省が運営に関与

FCP普及・戦略

アセスメント

地域
branch

三重branch

愛媛branch

岩手branch

和歌山branch

山梨branch

栃木branch

大分branch

滋賀branch

地域の状況に
応じたテーマ
設定

平成22年度研究会①～農水省の設ける研究、発表の場への参加～

消費者との対話のあり方研究会

- 食品事業者と消費者間の信頼構築を目的として、平成21年度の研究会活動で作成した「FCPダイアログ・システム(第一版)」を試行し、その結果を踏まえて対話型コミュニケーションのあり方について意見交換を行うとともに、システムの充実について研究。
- FCPダイアログ・システムの充実としては、実際にシステムを利用した結果を評価し、次のコミュニケーション戦略に反映する手法などについて検討し、PDCAサイクルの構築を研究。

工場監査項目の標準化・共有化研究会

- 食品事業者等におけるアセスメントに効率化を図るため、平成21年度に作成した、「FCP共通工場監査項目」について、活用を広めることについて研究。
- 監査項目毎にとりまとめた「実施要求水準」と「監査手法」を実際の工場監査の場面で適用し、使い勝手などについて検証し、この結果を踏まえて「実施要求水準」と「監査手法」を標準化・共有化する可能性について検討。

平成22年度研究会②～農水省の設ける研究、発表の場への参加～

商品情報の効率的なやりとり研究会

- 「協働の着眼点」の9.【取引先との情報共有、協働の取組】に基づき、消費者を起点として、フードチェーン全体で情報共有の手法を研究。
- 事業規模に関わらず、全てのステークホルダーの間で商品に関する情報が効率的にやりとりされるため、事実関係や相互の認識を共有するとともに、論点を整理し、協働での対応方向を検討。

企業力向上の場としてのマッチング・商談会の活用に関する研究会

- 平成21年度に作成した「FCP商談会・展示会シート」を様々な商談会、展示会等で活用した結果をご報告いただき、「FCP商談会・展示会シート」活用に関する情報を共有。
- あわせて、「FCP商談会・展示会シート」を周知、普及させるためのご提案や課題解決に向けた意見交換、シートの項目に関する検証を実施。



平成22年度研究会③

～事業者等の主体的な運営～

FCP普及・戦略研究会

○FCPの自立的展開を促すための、FCPの普及のあり方、手法の研究と実践。

普及活動の主体(①情報共有NW参加事業者による普及、②産学官連携による普及)に応じた研究を推進。

○平成21年度のFCPアドバイザリーボードメンバー、ファシリテーターの有志が中心となり、アドバイザーを始めとする情報共有NW参加者へ参画を呼びかけ。

※ 東京大学食の安全研究センター中嶋康博副センター長、オラクルひと・しくみ研究所小阪裕司代表、(株)アール・ピー・アイ長澤博英取締役が発起人。(株)アール・ピー・アイが運営事務局。

アセスメント研究会

○「協働の着眼点」や、それを生かした評価軸等を活用したアセスメント全般(セルフ、二者間、第三者)に関する個々の自主的な活動をご報告いただき情報を共有。

○個々の活動のスムーズな立ち上がり、評価軸の共有化の可能性、アセスメント全般の認知度向上等に関するご提案や課題解決に向けた意見交換。

※ 横浜商科大学地域産業研究所(小林二三夫所長)が主催。

FCP地域ランチの取組 ～地方公共団体の主体的な取組～

地域ランチ

- 各地で、FCPの仕組みを活用して、地域独自の課題に取り組み、地場の食品産業の活性化につなげる活動
- 都道府県から、独自のテーマ、手法での活動の提案を受け付け、農林水産省FCP事務局が連携して活動をサポート
- 食品産業事業者の人材育成、経営コンサルティング、販路開拓、商品ブラッシュアップ、農商工連携など、それぞれの地域が重視する課題に関して、それぞれの地域のやり方で運営
- 平成22年度は、岩手県、三重県、愛媛県、和歌山県、山梨県、栃木県、大分、滋賀県で地域ランチを立ち上げ。今後も、地域ランチ立ち上げを呼びかけ
- 地域ランチ間での情報共有や他の研究会活動との連動により、各地の活動のさらなる活性化を働きかける予定

地方公共団体との連携～FCP岩手 brunch の取組

着実に成長する食品事業者の共通点として見えてきたもの

食品事業者が経営発展するためには、
ココロ、シクミ、モノを磨き、
自社内外で伝え、共有する取組みが重要

食品事業者の取組みの「見える化」
事業者の皆さんと協働で、「見える化」に取り組む

“ココロ”を磨く

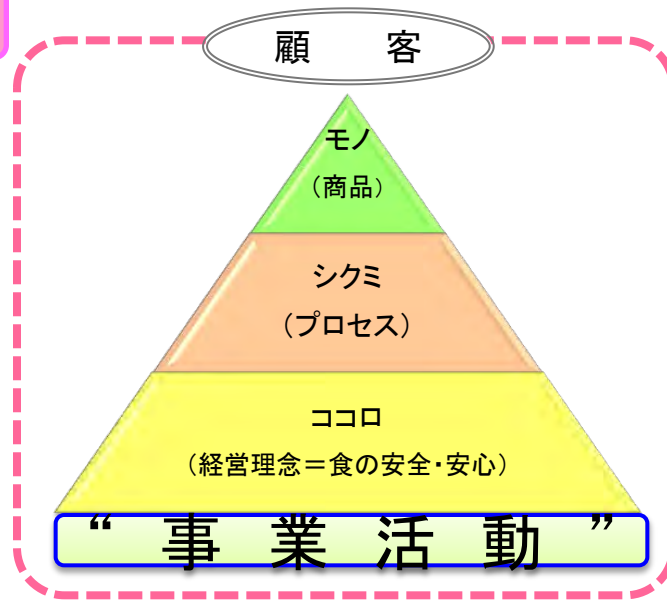
- 事業・経営計画策定支援

“シクミ”を磨く

- 経営管理向上による金融支援
- 製造・技術開発支援
- 衛生管理・品質管理支援

“モノ”を磨く

- 商品開発支援
- 商品マッチング支援
- 商品PR支援



“伝え、共有”する

- 情報発信支援
- 農商工連携支援
- 事業者間マッチング支援

事業者の課題に応じた支援と協働により、取組みの「見える化」を図る

地方公共団体との連携～和歌山ブランチの例

テーマ:「食の信頼向上による企業力と商品力の強化」

- ・平成20年3月に策定した「和歌山県長期総合計画」の目標を実現させるため、アクションプログラム2010 和歌山県農水産物・加工食品の販売促進戦略を策定。推進基盤の強化と農産加工を軸にしたアグリビジネス構築のためFCP和歌山ブランチを立ち上げる。
- ・食の信頼向上を前提としたお客様視点の「商品力」「企業力」の向上を図るとともに和歌山県の新たな地域資源の活用の方向性を探ることとする。

・ベーシック16を活用して自社診断(before)を行う。自社の「強み」「弱み」を確認し、商談会で活用できるレベルの商談会シートを作成し、企業力アップ実践の場として、わかやま産品商談会・フーデックスに参加。最終回に自社診断(after)を行い、研究会参加の効果検証を行う。

・また、食の信頼向上のため、企業経営戦略、品質管理、商品開発、コミュニケーションをテーマに研究を行う。

| 第一回 平成22年6月30日 お客様視点に立った 企業経営とは？ | 第二回 平成22年8月2日 安全・安心のものづく り | 第三回 平成22年9月28日 安全・安心で自社製 品に磨きをかけよう | 第四回 平成23年1月19日 安全・安心はこうやっ てPRする | 第五回 平成23年2月15日、 3月1～4日 商談会で実践 | 第六回 平成23年3月16日 成果発表会 |
|---|---|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・FCPとは？(FCPチーム) ・お客様視点にたった企業経営とは？(中山氏) ・グループワーク ・ベーシック16を使った自社診断(before) | <ul style="list-style-type: none"> ・製造現場から見た食の安全安心について(食品・生活衛生課) ・グループワーク 「FCP展示会・商談会シート」B面作成。 | <ul style="list-style-type: none"> ・バイヤーにうったえるような商談会シートの書き方。(高島屋チーフバイヤー野口氏) ・グループワーク 「FCP展示会・商談会シート」作成。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現力アップセミナー ・商談ロールプレイング | <p>わかやま県産品商談会in大阪</p> <p>FOODEX</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・商談会参加を振り返って ・ベーシック16を使った自社診断(after)・成果検証 |



「FCP商談会・展示会シート」を完成させ、商談会へ向け磨き上げと表現力UPを行う。ベーシック16を使い成果検証を行う。

FCPへの参画パターン

- まず、**情報共有ネットワーク**へ参加して、FCPへの賛同を表明、関係者と情報を共有

- FCPの活動について情報共有、意見交換等を行うFCP報告会への参加
- FCPの運営等に関する提案、意見提出

- 農林水産省の呼び掛ける研究活動、普及活動等へ参加
- ネットワーク参加者が催す研究活動、普及活動等への参加

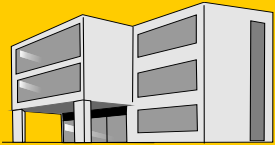
- 「協働の着眼点」など、FCPの提案する仕組みや成果物を活用して、それぞれの事業活動を展開

情報共有ネットワークへの参加

FCPでは、プロジェクトの基本的な考え方等に賛同する食品事業に関わる企業やその団体の間で、「**情報共有ネットワーク**」を構築。

FCP情報共有ネットワーク

プロジェクト事務局



メールマガジン等

提案等受付

食品事業に関わる企業やその団体



参加企業数 **968**社・団体(平成23年4月末現在)

- ネットワークへの参加は随時受付・特段の義務・負担はありません
- 社名・団体名をプロジェクト専用HP等に掲載させていただきます
- 各種FCP研究会・成果報告会への参画ができます
- 工場監査項目、商談会・展示会シート等のFCP成果物を活用し、独自にビジネスを展開に活用することができます

参画パターン（その2）

FCP報告会への参加、提案・意見の提出

- 1 FCPの活動について関係者で情報共有や意見交換を行う
報告会等への参加
例：東京大学「食の安全研究センター」と共催の、FCP成果報告会
- 2 FCPの運営や企画に関する提案、意見提出。
 - ・FCPの運営・「協働の着眼点」の改善
 - ・優良事例情報収集・研究会テーマ募集など



※東京大学弥生講堂 平成23年3月8日 FCP成果報告会を実施

参画パターン（その3）

FCP研究活動会への参加

- 1 農林水産省が呼び掛ける研究会への参加
テーマ例：「消費者との対話のあり方」研究会等
- 2 ネットワーク参加者が自主的にテーマを設定し、参加を呼び掛ける研究会への参加
テーマ例：「FCP普及・戦略」研究会
- 3 都道府県による地域でのFCPの研究活動（FCP地域ランチ）への参画
※都道府県が地域ランチを設けている地域に限る



